

出展企業と主な製品・サービス一覧

会計事務所

「黒字決算」と「適正申告」を推進するTKC全国会の会員数は、11,400名まで拡大。「FXクラウド」の実力を、会場でご確認ください。



(株)TKC



(株)ミロク情報サービス

社名は弥勒菩薩から。未来に向かって、弥勒の世(豊かで平和な高度情報化社会)の実現に向けて邁進中。

エッサムと言えば「会計事務所のデパート」。システム、情報、事務用品、オフィス設計まで何でも揃っています。



イーパップ e-PAP スマート・ストレージ

(株)エッサム

会計・税務 基幹系

株式会社 ハンド



(株)ハンド



TISインテックグループ(連結従業員数約2万2千人)となり、新たな取り組みに期待。新しい日本ICSの姿を、その目で確かめてください。

ハンドと言えば、パソコン税務ソフトの草分け「魔法陣シリーズ」。満を持して発売した「魔法陣会計クラウド」は注目です。



(株)シスプラ

会計事務所の現場ニーズを的確に拾い上げ続けるシスプラ。クラウド予実管理にも注目です。



(株)INVOX



日本ビズアップ(株)

会計 基幹系



(株)フリーウェイジャパン

設立当初からコストパフォーマンス重視のシステムを提供し続ける。ラインナップも豊富です。

請求業務を丸投げ可能。入金消込から催促まで自動化。サブスクの決済にも対応しています。

請求業務



(株)ROBOT PAYMENT

クラウド化の浸透 さらにAIの急速な進化

会計事務所の基幹業務ソフトは、事務所内にサーバーを設置しインストールされた会計・税務ソフトを使う、これが長らく常識でした。しかし、世界もそして日本も、このようなサーバー・クライアント型から、クラウド型サービスへの移行が進んでいます。この流れの象徴的な存在が、マネーフォワードとフリーの起業と言えるでしょう。大規模な企業では、導入コストの削減や拡張性、運用負荷の軽減などのクラウドのメリットは大きく、システムは「所有から利用へ」へと変化しています。会計事務所の視点では、クラウドが得意とする金融機関とのデータ連携は大きな魅力です。

会計事務所と顧問先にとって理想的な会計システムの条件の一つは、会計データを共有し、その受け渡しが不要というものでした。日本ビズアップやフリーウェイジャパンなどは、早い時期から実現しており、シスプラも含めて出展企業はそのニーズを既に満たしています。

ただ、会計事務所の実務レベルでは、必ずしもメリットばかりではありませんでした。特に慣れ親しんだ操作性が十分に実現できないなどがクラウド化の大きな障壁でした。それでもTKC、日本ICS、ミロク情報サービス、エッサムなど会計・税務ベンダーは従来の操作性を意識したクラウド化を進めています。また、パソコン税務ソフトの草分け的存在であるハンドもクラウド会計の提供を開始しています。

クラウドの強みはバックヤード業務の連携です。INVOXやROBOT PAYMENTは、発行側と支払側の請求業務を極限まで自動化することを目指しています。勤怠管理システムからスタートしたジョブカンも会計、請求業務まで広がっています。弥生もクラウド版では請求や経費精算などと連携する方向へ進み、ソリマチは記帳代行の視点でクラウドの有効活用を進めています。